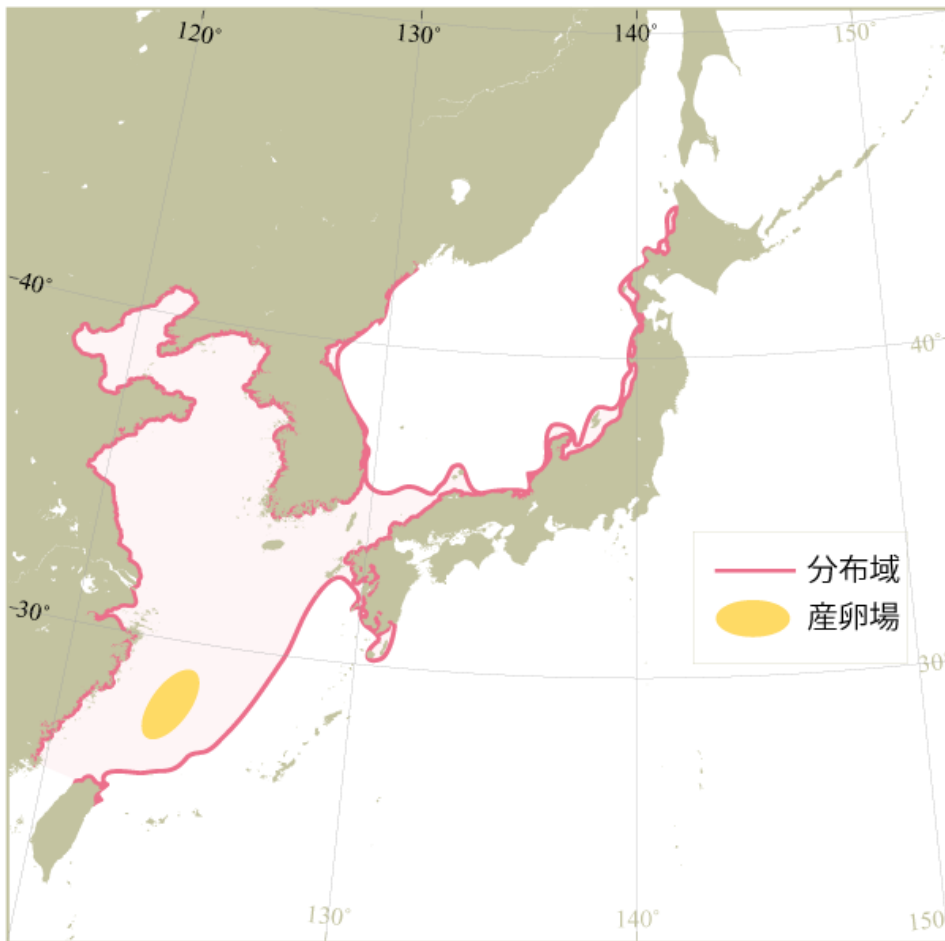




ウマヅラハギ
日本海・東シナ海系群
令和4年度資源評価結果

生物学的特性

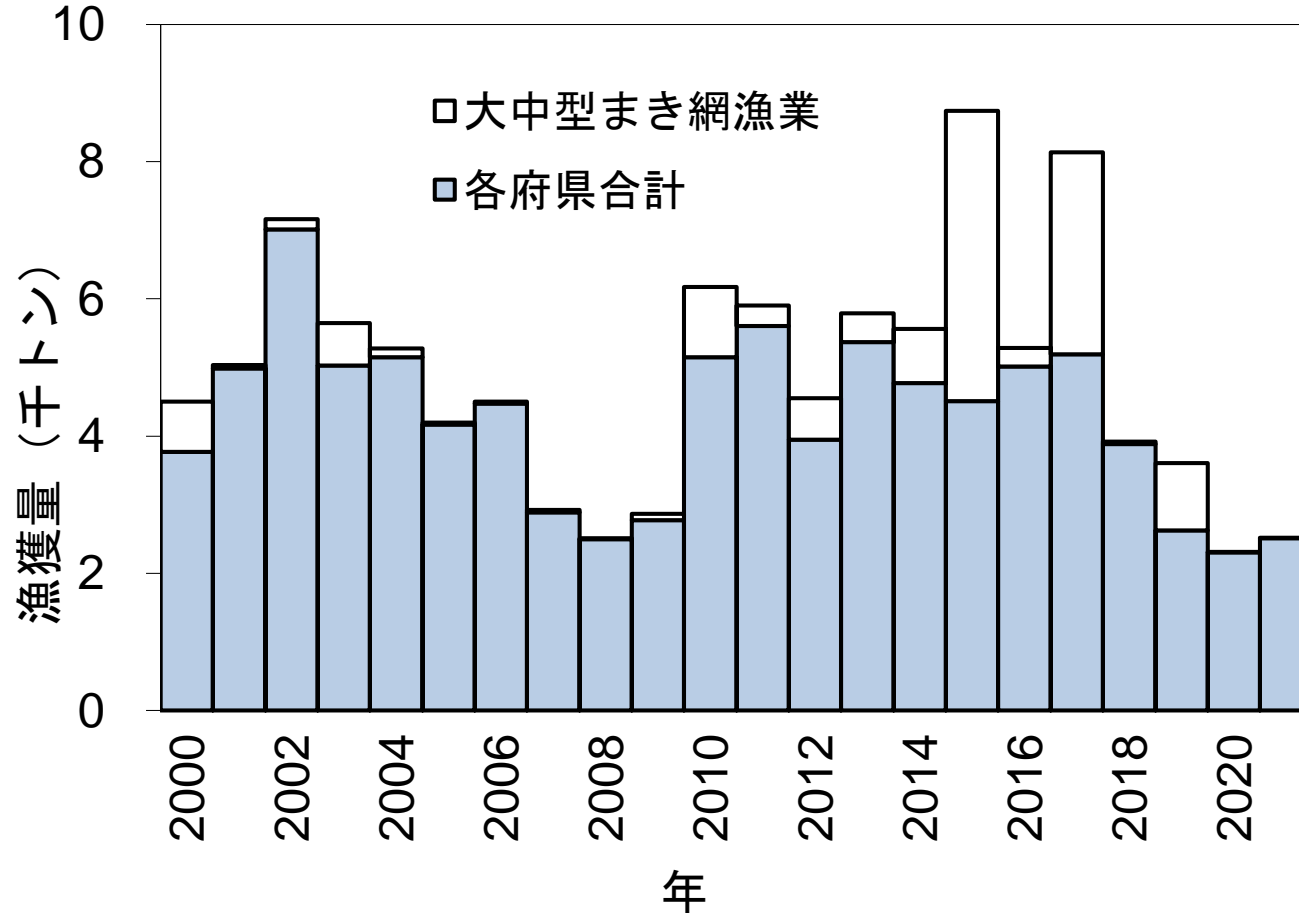


生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：筑前海で雌雄ともに1歳、新潟県沿岸の雌で1歳、東シナ海の雌で2歳
- 産卵期・産卵場：東シナ海域では4～6月、日本沿岸では5～7月
- 食性：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
- 捕食者：魚類、頭足類等

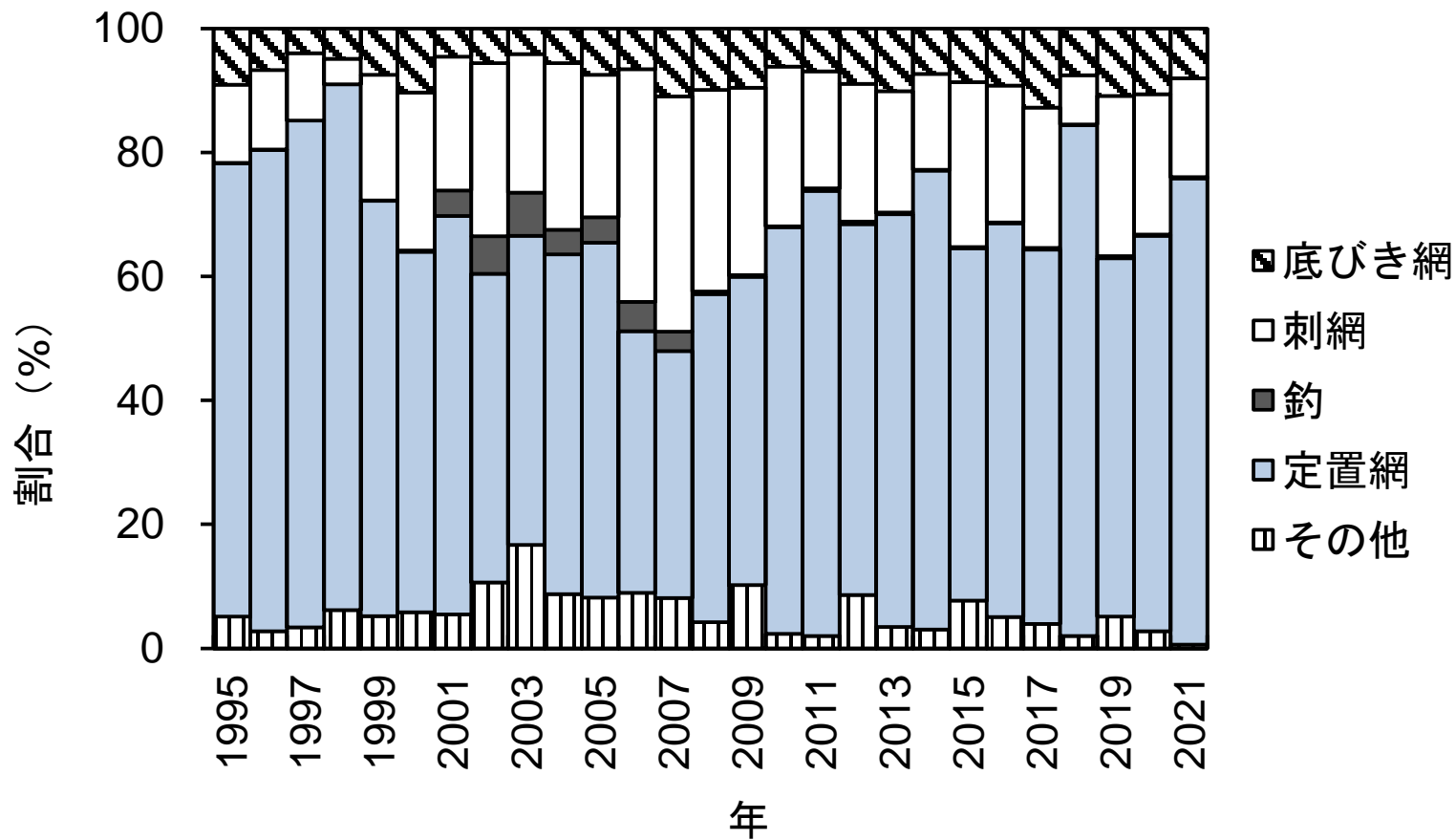
- 我が国周辺および東シナ海、黄海に分布
- 海域により成長が異なる

漁獲の動向①



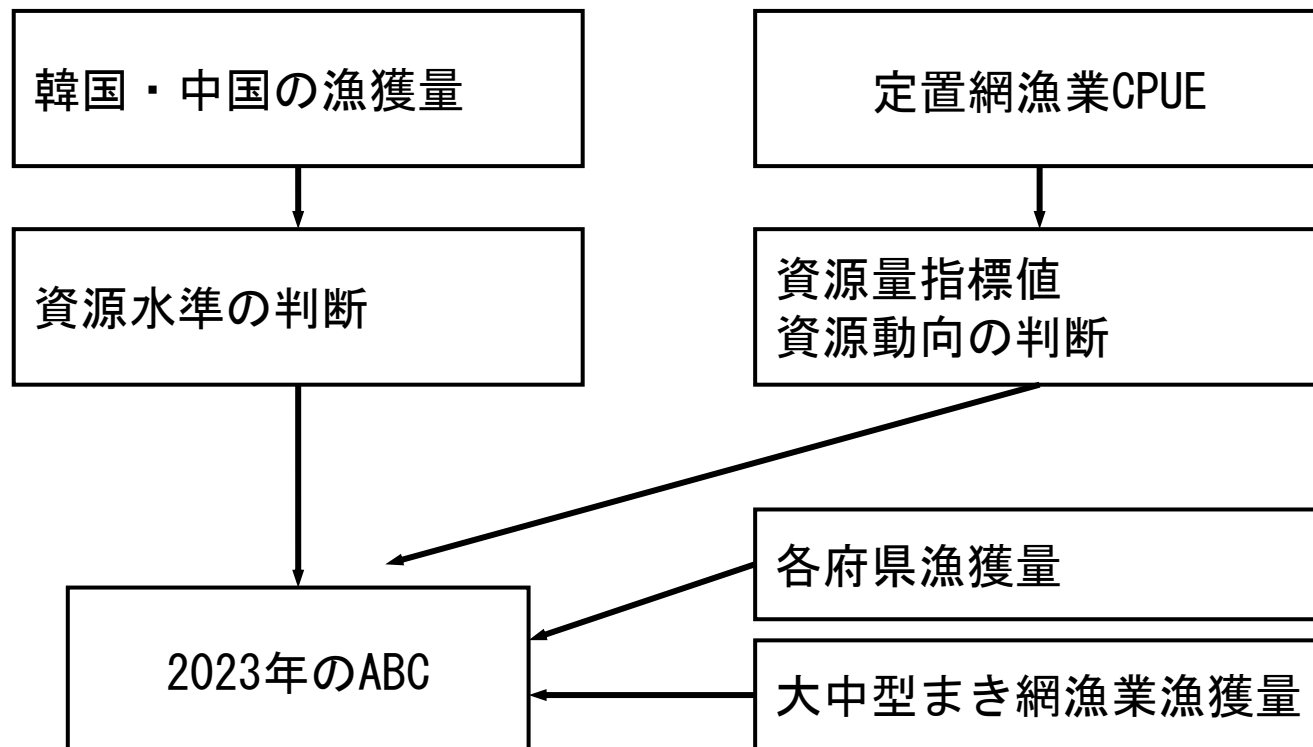
- 2018年以降の各府県漁獲量は減少傾向
- 大中小型まき網漁業の水揚げ量は年変動が大きい
- 2021年の漁獲量：2,515トン

漁獲の動向②

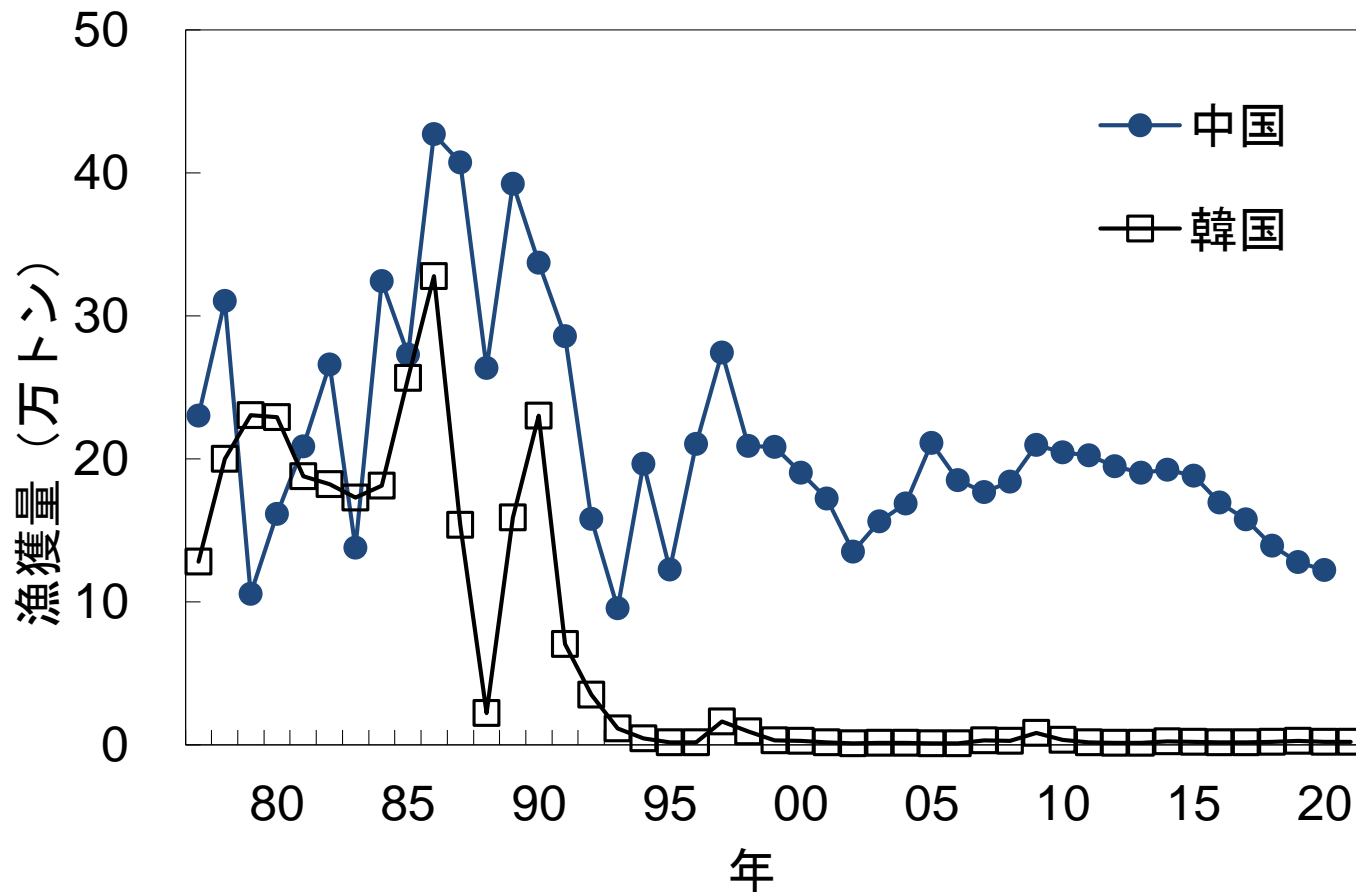


- 石川県では比較的長期の漁業種類別漁獲量を蓄積
- 定置網漁業による漁獲が最も多い

資源評価の流れ

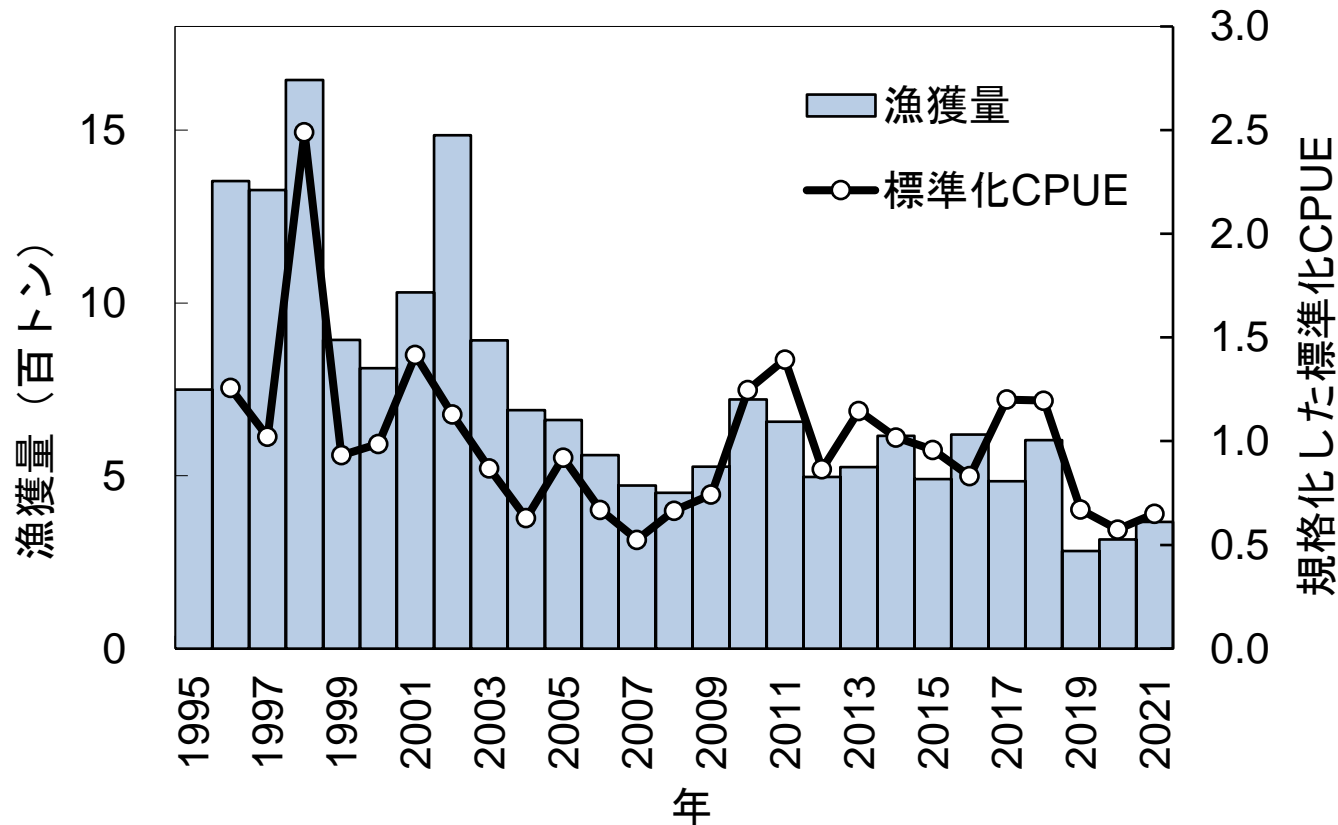


資源の動向①



- 1986年のカワハギ類漁獲量は中国と韓国合わせて75万トン
- 1992年以降低い水準で推移
- 資源水準：韓国と中国における漁獲量の水準から「低位」

資源の動向②



- 石川県における定置網漁業の単位努力量あたりの漁獲量 (CPUE) は2009年以降概ね横ばいで推移
- 2018年以降、標準化CPUEは低下し、2021年は微増
- 資源動向：直近5年間の標準化CPUEの推移から「減少」

資源評価のまとめ

- ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 漁獲量および標準化CPUEに基づいて資源状態を判断

2023年ABC

管理基準	Target/Limit	2023年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.98	Target	15	—	—
	Limit	19	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (低位水準で平均漁獲量使用時の推奨値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間 (2019~2021年) の平均漁獲量)
- γ_1 : 0.98 (資源量指標値の推移より算出)